

『真のリーダーシップとは』

大阪大学特任教授
グローバル寺子屋「藪中塾」塾長
藪中 三十二

リーダーシップ、この言葉を勘違いする人が少なくない。真のリーダーか否かは、困難に直面した時に明らかになる。平時、凧の時に組織を正しい方向に導き、成果を上げる、これも立派なことだが、真のリーダーだ、と持ち上げるほどのことはない。

真のリーダーは、組織が大きな困難に直面した時に、慌てず、打開策を見出し、部下や仲間に安心感を与えなくてはならない。

また、困難に直面する、というのは、誰かが間違いをしたか、組織が対応力をなくし、機能不全に陥ったかの何れかである事が多い。その時、他を叱責し、責任を押し付ける、そうした人間が少なくないが、これこそ、リーダー失格である。

こんな当たり前のことを改めて書くのは、まさに日本の社会でリーダー失格のケースが多く見受けられるからである。

日本は、大きな試練に直面している。日本という組織が機能不全に陥っていて、「失われた30年」が継続中である。そのことに正面から向き合い、何が問題か、その責任は何処にあるかを明確にし、その上で本格的な対処策を示さなくてはならないが、今の日本では、責任を回避し、ごまかしの政策ばかりである。私は、「ガバナンス」などローマ字の言葉が蔓延し、何が本当の問題か、分からなくなっていることが大問題だと思っている。企業も「ガバナンス」重視に陥り、4半期毎の収支にこだわり、大胆な投資に臆病になり、世界との競争に負けてしまっている。政治、ビジネスの世界で真のリーダーが出現してほしいと願うばかりである。